

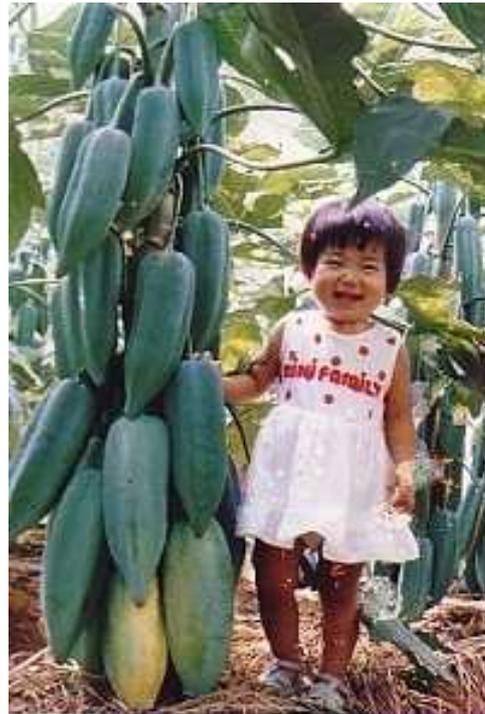


[1069831_358959304232591_73154264_n](#)

南伊豆町一條に生まれ住む吉田謹治さん(65歳)は19歳で就農、以来46年農業を通じて様々な事に取り組まれてきました。ご自身で「おく農園」を営む他、2005年の開設以来、道の駅「湯の花」の直売所理事長を務めておられます。



[120131minamiizuchou_babakou081](#)



[mizuhosan](#)

「おく農園」では露地栽培の他、ビニールハウスで野菜の苗やとても珍しい南米アンデス原産の星形パパイヤなどを育てておられます。



[120131minamiizuchou_babakou107](#)

[120131minamiizuchou_babakou119-300x225](#)

道の駅「湯の花」の直売所は当初農業振興会加盟150名の内、33名が出資して誕生、その後NPO法人となりました。卸売市場と競合する直売所のトップに就任することは勇気のいる事でしたが、きっと地域のためになると信じて理事長を引き受けました。



[images](#)

[120131minamiizuchou_babakou108](#)

「湯の花」に登録している出荷者は現在約530名。85歳で年間400万円以上売り上げる強者もいらっしゃるようですが、多くの方は、自分も安心して食べられる美味しい野菜や果物などを出荷し、お客さんの反応とお小遣い稼ぎを生きがいの一つにされているようです。お客さんの約8割は地元のピーター。生産者の名前を確認して買う人も多いそうです。ただ、直売所のすぐ裏を流れる青野川に河津桜が咲き誇る頃と海の季節はたくさんの観光客で賑わいます。直売所の売り上げは初年度4,000万円だったものが2016年は2.9億円まで右肩上がり、10,000人以上だった町の人口が8,500人まで減少する中で見事な成長を遂げていると言えますね。出荷者の男性と女性の違いが面白いとおっしゃいます。男性は商品を並べたらさっさと帰るのに対して、女性はじっくり他の人の作物を見定めたり、出荷者仲間同士で情報交換に1時間以上費やすのはざらだとのこと。



[images \(3\)](#)

[image013](#)

南伊豆町の農業振興会は菜の花やヒマワリ畑で観光にも一役買っています。田んぼ作りを止めてしまった日野地区の農地は高さ4mにもなる雑草に覆われて見るも無残な光景が広がっていました。これを見かねた農業振興会の人達は1992年に草刈りを始めました。そして数年後、町役場の熱心な担当者が沢山の地主さんを説得、菜の花畑にすることになりました。今では菜の花結婚式が年中行事になるなどすっかり定着、夏にはヒマワリ畑となって見る人の目を楽しませています。25年以上にわたりボランティアを続けている農家の皆様に感謝です。



[IMG 4328](#)

吉田さんは2016年10月「日々コレ探求」を自費出版しました。農業での試行錯誤や他の農家の達人、地域の雑感などがまとめられた素晴らしいエッセーです。その中の極一部を抜粋でご紹介します。

1. ある時トマトの苗を作り過ぎた吉田さんは、もったいないと思い、いつもより5cm狭い間隔で植え付けた結果、トマトは大混雑となり手入れに大変な労力を要した上に作物はほとんどB級やC級品になってしまったこと。一方、富士市の大石さんは歳をとった為、減収覚悟で苗数を減らしたところ、のびのびと育ったイチゴは増産、労力は少なくてすんで嬉しい誤算だったこと。

2. 南伊豆町は荒れ果てた耕作放棄地が多いのに対して、お隣の松崎町には今でも美しい水田が広がっているのは何故か？南伊豆町では高齢化でたんぼ作りが難しくなった時、子供達はもうやめた方がよいというのに対し、田んぼを守るという町中のコンセンサスが出来ている松崎町では、田植えや稲刈りの繁忙期は、子供達が会社を休んで都会から手伝いに戻ってくるという。だれも手伝う人が居なければみんなで田んぼの借り手を探すのだという。

この本は吉田さんが蓄積してきた知恵やヒントが満載のとても読み易い素晴らしい本だと思いますので皆さまにもお勧めしたいと思います。



[haya](#)

吉田さんは湯の花で若者の交流の場を設けた際、若者はその様な機会に飢えていることを痛感したそうです。「車社会で飲みにケーションの機会が激減している現在、日頃コミュニケーション出来る場を作るとは地域で結束する力を得る為にも欠かせない。私も努力を続けるが若者自身もぜひ自ら心掛けて欲しい。」とのことでした。

生きがい特派員 賀茂地区担当 福居通彦

吉田さんのエッセー「日々コレ探求」は書店で販売されていませんが、直接ご本人に申し込めば郵送料込 ¥1,000で送って貰えます。お支払いは同封の払込票で出来ます。電話・ファックス 0558-62-1486

[道の駅湯の花](#)